

(別紙)

履修モデル

【ケース1】

入学時の背景	口腔保健学科の新卒者
入学目的	より深く高度な医療専門的知識と技術を習得したい
修了後の希望進路	高齢者施設で口腔ケア・摂食支援ができる就職先

【履修モデル1】

研究テーマ	高齢者施設における摂食嚥下支援介入が認知機能に与える影響について		
指導内容	高齢者施設入所者に対して摂食支援介入を行った場合の効果を評価するために、摂食支援介入の実践が可能な方法論、技術を習得するとともに、高齢者の認知機能の評価方法や認知に係る特性について検討し、介入結果を解析し、その成果を公表する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	基礎科目 (4単位)	生命・医療倫理学	1
		摂食神経科学特論	2
		生命科学論文作成概論	1
	専門選択科目Ⅰ (6単位)	医療コミュニケーション学特論	1
		内科学特論	1
摂食神経科学演習		2	
高齢者・障害者口腔機能支援学特論		2	
専門選択科目Ⅱ (8単位)	口腔内科学演習	4	
	高齢者・障害者口腔機能支援学演習	4	
専門研究(12単位)		12	
	合計		30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・早期から高齢者施設への就職支援に取り組む ・専門研究では、主任/副任指導教員とともに、口腔ケア・摂食支援にかかる国内外の論文を抄読し、当該分野に最新の研究成果と方法論を身につけ、就業後も引き続き研究的視点に立って臨床実務にあたることのできる能力を素養する。 		

【ケース2】

入学時の背景	臨床経験20年の就労看護師 総合病院の急性期病棟を担当
入学目的	急性期の口腔ケア・摂食支援介入に関する医療専門的知識と技術を習得したい
修了後の希望進路	急性期で口腔ケア・摂食支援の介入に係る技術を習得して、現在の職場に還元したい

【履修モデル2】

研究テーマ	急性期における口腔ケアの安全性の確保に関する臨床的研究		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期での口腔ケア・摂食支援介入に必要な医療技術や管理方法について現状を把握し、課題を抽出してその解決方法を考案し、臨床現場で実践的に研究し、その結果を公表する。 ・科学的根拠にもとづいた感染症対策を立案実行できるよう、口腔感染免疫学特論・演習を受講する。 		
履修科目	科目	授業科目	単位
	基礎科目 (4単位)	生命・医療倫理学	1
		口腔保健科学特論	2
		生命科学論文作成概論	1
	専門選択科目Ⅰ (6単位)	口腔リハビリテーション学特論	2
		摂食神経科学特論	2
口腔感染免疫学特論		2	
専門選択科目Ⅱ (8単位)	口腔リハビリテーション学演習	4	
	口腔感染免疫学演習	4	
専門研究(12単位)		12	
	合計		30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・就労環境を考慮して、夜間の学習環境を確保するとともに4年までの修学期間の延長に配慮する。 ・専門研究では口腔ケア・摂食支援にかかる国内外の論文を抄読し、当該分野に最新の研究成果と方法論を身につけ、就業後も引き続き研究的視点に立って臨床実務にあたることのできる能力を素養する。 		

【ケース3】

入学時の背景	3年制専門学校卒業後5年目の未就労歯科衛生士
入学目的	修士の資格を得て就職活動を有利にしたい 未就労期間の技術の遅れを取り戻したい
修了後の希望進路	歯科衛生士養成所の教員

【履修モデル3】

研究テーマ	歯科衛生士の養成に係る研究		
指導内容	歯科衛生士教育の現況を把握して問題点を抽出・分析し、その解決方法・改善策を検討した結果を公表し、その成果を教育現場に還元する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	基礎科目 (4単位)	生命・医療倫理学	1
		口腔保健科学特論	2
		生命科学論文作成概論	1
	専門選択科目Ⅰ (6単位)	医療情報学特論	1
		口腔保健福祉学特論	1
口腔保健管理学特論		2	
歯科診療支援学特論		2	
専門選択科目Ⅱ (8単位)	口腔保健管理学演習	4	
	歯科診療支援学演習	4	
専門研究(12単位)			12
		合計	30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・早期から歯科衛生士養成所への就職支援に取り組む ・専門研究では、教育理論に関する論文の抄読を行うとともに、歯科衛生士養成所で教育理論にもとづいた介入を行い、その成果を歯科衛生教育学会等で発表する。 		

【ケース4】

入学時の背景	口腔保健学科もしくは他学科(3年制専修学校の専攻科を含む)の新卒者
入学目的	骨代謝学について深く学びたい
修了後の希望進路	口腔保健に関する研究者

【履修モデル4】

研究テーマ	歯周治療における骨代謝の改善に関する細胞分子生物学的研究		
指導内容	歯周ポケット局所の骨代謝を改善に供する生理活性物質の検索と、当該生理活性物質刺激の細胞内シグナルについて、細胞分子生物学的方法により検討し、その成果を科学論文雑誌に報告する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	基礎科目 (4単位)	生命・医療倫理学	1
		口腔保健科学特論	2
		生命科学論文作成概論	1
	専門選択科目Ⅰ (6単位)	口腔科学特論	2
		細胞分子生物学特論	2
口腔感染免疫学特論		2	
専門選択科目Ⅱ (8単位)	口腔科学演習	4	
	細胞分子生物学演習	4	
専門研究(12単位)			12
		合計	30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・歯学科の博士課程や博士後期課程を設置している大学院へ進学について要望がある場合は、進路指導を行う。 ・いつでも実験ができる環境を提供し、研究成果を国際誌に投稿することを目指す。 		

【ケース5】

入学時の背景	新卒の歯科衛生士（4年制大学卒業）
入学目的	口腔をキーワードとした多職種連携を効果的に展開するための方法論を学びたい
修了後の希望進路	多職種連携による口腔機能の向上に関する知識を地域で実践したい

【履修モデル5】

研究テーマ	回復期病棟における摂食嚥下機能支援の問題点とその解決方法		
指導内容	回復期病棟での摂食嚥下機能支援における多職種連携の効果的な展開方法とその実践について検討し、その成果を公開する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	基礎科目 (4単位)	生命・医療倫理学	1
		口腔保健科学特論	2
		生命科学論文作成概論	1
	専門選択科目Ⅰ (6単位)	医療情報学特論	1
		口腔保健福祉学特論	1
医療政策学特論 高齢者・障害者口腔機能支援学特論		2 2	
専門選択科目Ⅱ (8単位)	医療政策学演習	4	
	専門的歯科衛生士業務演習	4	
専門研究(12単位)		12	
	合計		30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的歯科衛生士業務演習では多職種連携を実習するため、連携病院である小倉リハビリテーションで回復期病棟における摂食機能支援と退院時カンファレンスの実際を学ぶ。 ・専門研究では摂食嚥下機能支援にかかる国内外の論文を抄読し、当該分野に最新の研究成果と方法論を身につけ、就業後も引き続き研究的視点に立って臨床実務にあたることのできる能力を素養する。 		

【ケース6】

入学時の背景	インプラント専門歯科医院に勤務する歯科衛生士
入学目的	今の技術に限界・疑問を感じたため、インプラント診療支援の技術とメンテナンスの精度を向上させたい
修了後の希望進路	習得した技術を臨床現場に還元したい。

【履修モデル6】

研究テーマ	インプラント周囲炎の発症機構の解明と予防方法の確立		
指導内容	インプラント特有の生物学的課題を臨床的問題点と突合・分類し、インプラント周囲炎の予防に係る医学的に最も効果的な方法について検討し、実際の臨床に応用して介入結果を分析するための知識・技術について教授し、研究成果を学術雑誌に報告する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	基礎科目 (4単位)	生命・医療倫理学	1
		口腔保健科学特論	2
		生命科学論文作成概論	1
	専門選択科目Ⅰ (6単位)	口腔内科学特論	2
		歯科診療支援学特論	2
細胞分子生物学特論		2	
専門選択科目Ⅱ (8単位)	口腔保健管理学演習	4	
	専門的歯科衛生士業務演習	4	
専門研究(12単位)		12	
	合計		30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の就職に資するよう学会や研究会を通じてインプラント専門医との交流を深めことのできる環境を整える。また、進学也希望にも配慮する。 ・専門研究では、臨床研究に偏ることがないように、in vivo 実験研究に取り組みせ、リサーチマインドを涵養し、細胞培養などの先進医療に対応できる知識と技術を身につける。 ・日本口腔インプラント学会などで研究成果を発表する。 		

【ケース7】

入学時の背景	栄養学科の新卒者
入学目的	経口栄養摂取が他の栄養摂取方法に比べなぜ質のよい栄養管理となるのか、その生物学的・医学的機序について解明したい。
修了後の希望進路	管理栄養士の資格と修士課程での研究成果を活かすことのできる食品開発の企業

【履修モデル7】

研究テーマ	栄養摂取経路の違いが栄養吸収に与える影響について		
指導内容	動物実験で経口栄養、経管栄養（経鼻、胃瘻）モデルを構築し、口腔機能の特性を理解しつつ、栄養吸収の差について分子生物学的に検証し、その成果を学術論文雑誌に公表する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	基礎科目 (4単位)	生命・医療倫理学	1
		口腔保健科学特論	2
		生命科学論文作成概論	1
	専門選択科目Ⅰ (6単位)	分子栄養学特論	2
		口腔科学特論	2
口腔感染免疫学特論		2	
専門選択科目Ⅱ (8単位)	分子栄養学演習	4	
	口腔科学演習	4	
専門研究(12単位)		12	
	合 計		30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・歯学科もしくは他学科の博士課程や博士後期課程を設置している大学院へ進学について要望がある場合は、進路指導を行う。 ・在学中に研究成果を栄養関連学会や歯科領域の国内外の学会で発表できるよう、専門研究を充実する。 		

【ケース8】

入学時の背景	口腔保健学科もしくは他学科(3年制専修学校の専攻科を含む)の新卒者
入学目的	嚥下性肺炎による死亡率を下げたい
修了後の希望進路	口腔保健に関する研究者もしくは大学教員

【履修モデル8】

研究テーマ	口腔内細菌叢と嚥下性肺炎の発症の関連について研究		
指導内容	高齢者施設等の入所者の口腔内からサンプルを採取するとともに嚥下機能について評価し、口腔内細菌叢の菌叢パターンと老化による嚥下機能の低下が嚥下性肺炎の発症にどのような関連があるのか解析を行い、その成果を学術論文雑誌に公表する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	基礎科目 (4単位)	生命・医療倫理学	1
		口腔保健科学特論	2
		生命科学論文作成概論	1
	専門選択科目Ⅰ (6単位)	口腔科学特論	2
		口腔感染免疫学特論	2
細胞分子生物学特論		2	
専門選択科目Ⅱ (8単位)	口腔感染免疫学演習	4	
	細胞分子生物学演習	4	
専門研究(12単位)		12	
	合 計		30
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・歯学科の博士課程や博士後期課程を設置している大学院へ進学について要望がある場合は、進路指導を行う。 ・いつでも実験ができる環境を提供し、研究成果を国際誌に投稿することを目指す。 		